

第40回 公益社団法人日本看護科学学会 学会総会 議事録

日 時 2020年12月12日(土) 16:20~17:20
場 所 WEB開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

出席者数 2,624名 (WEB開催出席 327名、委任状 2,297名)

議 長 萱間 真美

I. 開 会

現正会員数 9,894名中、開会時 WEB 開催に出席した正会員数 114名、有効委任状提出者 2,297名、合計 2,411名であり、日本看護科学学会定款第 45条に定められた要件を満たしていることが確認され、第 40回公益社団法人日本看護科学学会総会が開会された。

司会は須釜淳子副理事長が、書記は藤野あゆみ氏(愛知県立大学)が行った。

II. 理事長挨拶

真田理事長より、以下の挨拶があった。

COVID-19の第3波の最中、本日は東京の感染者数が621名と過去最多となった。萱間学術集会会長が4月にこの状況を予測してオンライン開催に全て切り替えられたことは英断であり、素晴らしいプログラムを展開されていることに心よりお礼申し上げたい。今朝、日本看護協会の福井会長がニュース番組で看護師の立場に立って国民が動いて欲しいと切に訴えていた。フロントラインで仕事をしている看護師の立場を考え、自分達の行動を自粛しなくてはならないと思ってもらえないかという意味であったと推測される。フロントラインで国民の命を守らなくてはならない状況の中で頑張っている看護師、保健師の皆様に心からお礼申し上げたい。本学会が開催できることも皆様のおかげである。

会員の皆様においては学生の実習、卒論、修論、博論など様々な変更があり、現場に出られず困った学生、教員が多かったと推測される。本学会はアカデミアが大半を占めるため、科学学会という名のもとに研究を推進すべく足を止めないように奮闘してきた。本日は、会員の皆様の意見を頂戴するとともに、取り組みについて報告したい。COVID-19によって研究の方向性が変わっている可能性があり、JANSでは委員会を立ち上げて実態調査を実施した。そこから見えてきたものが多々あり、我々は他のアカデミアの先生方とは異なる教育の問題を抱える。その実態をまとめ、皆様にご報告したい。

III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第44条に従い、議長に第40回学術集会会長の萱間真美氏が指名された。また議事録署名人として、斉藤恵美子氏(東京都立大学)、近藤麻理氏(関西医科大学)の2名が推薦され、承認された。

IV. 報告事項

1. 理事長のビジョンと運営方針

真田理事長より、画面に示された内容をもとに以下の説明があった。

今年度の理事会は、大きく2つに焦点を絞って企画・運営してきた。

- (1) NURSING SCIENCEを標榜する学会として看護ケアの開発・標準化の推進
- 1つ目は、前期の鎌倉理事長から継承した看護ケアの開発・標準化の推進である。NURSING SCIENCEを標榜する学会として看護ケアの開発・標準化を行い、ケアガイドライン作成を進めている。システマティックレビューは1つ終わり、嚥下のアセスメントも終了している。他にも2つのグループがガイドライン作成に向けて活動中である。須釜副理事長が中心に活動している「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」は6月に公開予定である。

- (2) 若手研究者の活性化と研究活動の促進

2つ目は、若手研究者の活性化と研究活動の促進である。

JANSは、研究者を育成する大きな仕事があるが、その中でも若手研究者が論文を作成、投稿し、新しいサイエンスをつくることを後押しする責任がある。

和文誌投稿は、従来、全ての著者が会員である必要があったが、今回、筆頭著者のみ会員であればよいことになった。他職種あるいは他領域の研究者との共同研究が公表されることを期待している。

論文投稿に関し、ファストトラックを導入した。論文掲載によって学位を認める大学があり、若手研究者が博士の学位をできるだけ早く取得できるよう、特別な査読方式を導入して1回目の査読を30日程度で終わらせるようにした。和文誌・英文誌のこの迅速査読をぜひ活用して欲しい。

会員資格、あるいはそれに連動する事業に関する定款や規則類の変更が必要になり、会則等委員会を新たに設置し、定款および規程類を見直している。まず、若手研究者の育成と支援を事業の柱の1つとして定款に加えている。(12月11日の社員総会で承認)

大型研究費に関しては、若手研究者と協働で研究することによって将来に向けて、大型研究費を獲得していく経験を積めるようにする。今回、日本学術振興会の「学術変革領域研究(A)」の2021年度の申請を目指して領域代表者1名を選定、計画研究代表者には27名の申請があった。今後も推進していきたい。

学術集会での演題表彰を行う。萱間学術集会会長が第40回学術集会で大会賞をつくられた経験を活かし、次回も続けたい。第41回学術集会からは4つの種類の表彰をつくるので、全ての方にいずれかにエントリーしてもらいたい。

- (3) 委員会の増設

会則等委員会を新たに設置し、今後、丁寧に歴史ある定款はじめ規程類を見直していく。

COVID-19看護研究等対策委員会は、アドホック委員会として設置し、COVID-19の収束時に解散とする。後程、アンケート結果の報告を行う。

2. 委員会のミッションと2021年度事業計画について

画面上に各委員会のミッションと2021年度事業計画が表示された。総務担当の永田理事より、各委員会は会務分掌に基づき、継続して下記の活動を行っていく旨、説明があった。

- 和文誌編集委員会：日本看護科学会誌の編集・発行
(迅速査読と非会員共著者からの投稿の継続)
- 英文誌編集委員会：Japan Journal of Nursing Scienceの編集・発行
(迅速査読の継続)
- 表彰論文選考委員会：表彰論文選考、公開、表彰、2021年度からは演題表彰
(優秀演題口頭発表賞、若手優秀演題口頭発表賞、優秀演題ポスター発表賞、
優秀演題抄録賞の4賞で4～8名を表彰)
- 研究・学術推進委員会：看護学に関する各種研究の推進を支援
(大型研究費獲得のための支援の継続)
- 看護ケア開発・標準化委員会：看護技術を開発標準化するモデルを構築
(ガイドライン作成グループ支援の継続)
- 若手研究者活動推進委員会：未来の看護学を創造・想像する土台を構築
(若手研究者のネットワーク構築の推進、COVID-19看護研究等対策委員会の
研究結果等に基づき、COVID-19が若手研究者に与える影響を把握し、セミ
ナー実施等の支援を検討)
- 国際活動推進委員会：看護学の国際活動の推進
(第7回WANS学術集会の支援などWANS事務局の継続)
- 看護学学術用語検討委員会：看護が扱う専門用語の概念的統一を図る
(セルフケアの再定義について継続して検討)
- 社会貢献委員会：看護学の研究活動を通して人々の健康と福祉に貢献
(学術集会での市民公開講座の開催)
- 広報委員会：看護学を広く発信し人々の健康と保健・医療・福祉に貢献
(英語版ホームページの更新と内容の充実を継続)
- 看護倫理検討委員会：倫理的課題を整理し研究者モラルの向上を図る
- 利益相反委員会：研究の公明性と中立性を確保し社会的責務を果たす
- 研究倫理審査委員会：看護研究の倫理的配慮がなされているかを審査
- 災害看護支援委員会：看護系学会との連携により災害時活動内容を検討
- 若手研究者助成選考委員会：2021年度から若手研究者への助成を実施
- 会則等委員会：定款や規程類についての管理・運営を実施
(定款第10条に関する現状との対比など検討と変更)
- COVID-19看護研究等対策委員会：COVID-19状況下での研究活動の実践を検討
(「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会会員の研究活動への影
響と学会に求める支援に関する調査」のデータで論文執筆を行う研究参加者
への協力と支援の継続)
- 総務委員会：会員管理と事務所管理を円滑に行う

3. 2021年度予算について

画面に示された収支予算書について、会計担当の石橋理事より説明があった。総収入と総支出の差異(収支差額)は19,000円であり、社員総会で承認された旨、報告があった。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

4. 名誉会員の就任報告

総務担当の永田理事より、阿曾洋子氏の名誉会員就任が報告され、合わせて、経歴が紹介された。

5. 第43回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告

総務担当の永田理事より、2023年開催の第43回日本看護科学学会学術集会会長として、田中マキ子氏（山口県立大学）が選任された旨、報告があった。

6. 「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」の報告

COVID-19看護研究等対策委員長の須釜副理事長より、COVID-19に関連する会員動向調査について調査趣旨と調査概要について報告があった。合わせて、本調査の速報結果がHP上で公開されている旨、説明があった。

同委員会吉永委員より、第1回調査結果の全体の概要について報告があった。主な結果として、48%が研究活動に対する意欲が減ったと回答、82%が研究活動が阻害されたと回答、89%が研究活動に不安があると回答、80%が相談相手がいないと回答したこと等が報告された。研究活動上の主な肯定的変化については、遠隔による学会・講習会のメリットを体験（該当者：50%）、ICTを活用して国内の研究者間でのコミュニケーションが取りやすくなった（該当者：39%）等の回答があった旨、報告された。JANSに求める主な支援については、オンラインで参加できるセミナーや研修機会の充実（該当者：95%）、コロナ禍における効果的な教育方法の研修（該当者：92%）、コロナ禍において活用可能な研究方法の研修（該当者：84%）、JANSが行う会員向け調査データのオープンソース化（該当者：83%）等の回答があった旨、報告された。

同委員会仲上委員より、常勤看護系大学教員を対象を絞ってCOVID-19の影響を検討した結果について、報告があった。職位別のエフォート配分状況は、いずれの職位も教育に対するエフォートが最も高いことは共通していたが、教授は管理・運営、准教授・講師は教育、助教・助手は研究のウエイトが他の職位よりも高い傾向であった。COVID-19によって研究時間がとても減った・やや減ったと回答した割合は、教授・准教授は70%を超えているのに対し、助教・助手は58%であった。研究活動の阻害要因を職位別にみると、教授では管理的側面の要因が多く、助教・助手では育児時間の増加、在宅勤務による研究効率の低下等であり、准教授・講師はそのいずれの特徴とも重なり、職位別によって阻害要因が異なることが明らかになった。JANSに求める支援を職位別にみると、オンラインで参加できるセミナーや研修機会の充実が今、最も求められていた。この点については、JANSが学会として支援を始めているもしくは始める準備をしていること、および本研究のデータがその支援の根拠となっている旨、説明があった。

本調査によって、看護系大学教員は職位によってCOVID-19から受ける影響が異なること、シニア教員が若手教員の研究時間の確保に寄与している可能性があること等が明らかにされた。COVID-19による影響とJANSの対応プランについては、以下の説明があった。研究費に関しては、若手研究者向けの研究助成金や海外留

学助成金の創設、対面が困難でデータが収集できない事態に対しては、共同研究の枠組みによるデータベースのオープンソース化への対応、JANSセミナーの完全オンライン化や内容の検討、コロナ禍を含む非常時に活用可能な研究方法の研修の要望については、JANSセミナーやエリア検討会でテーマとして取り上げること、オンラインで会員同士が気軽に交流・相談できる機会の要望については、まずは若手研究者のグループでSNSを使った交流できるシステムを検討する旨、説明があった。また、現在、共同研究の枠組みによるデータベースのオープンソース化が進行中であり、今後、JANSが有するデータを会員が有効に活用できるシステムの在り方を検討する旨、説明があった。最後に本調査への協力に対する謝辞が述べられた。

真田理事長より、本調査結果を有効に活用していく旨、説明があった。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

V. 審議事項 理事会への意見

議長は質問を促したが、特に質問はなく、議事は終了した。

VI. 表彰

表彰論文選考委員長の亀井理事が表彰者3名を紹介した。対象論文は以下となる。

【優秀賞】

・朝澤恭子

「Quality-of-life predictors for men undergoing infertility treatment in Japan」
Japan Journal of Nursing Science (2019) Volume 16, Issue 3 (pages 329-341)

・村松恵多

「Comparison of wiping and rinsing techniques after oral care procedures in critically ill patients during endotracheal intubation and after extubation: A prospective cross - over trial」
Japan Journal of Nursing Science (2019) Volume 16 , Issue 1 (pages 80-87)

【奨励賞】

・堀部光宏

「生体肝移植後の高齢レシピエントの自己管理行動の現状と自己管理行動に影響する要因」

日本看護科学会誌 2019年 39巻 p.147-156

なお、3名の受賞者より受賞の挨拶があった。

VII. 第41回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶

第41回学術集会会長百瀬由美子氏より、以下の挨拶と説明があった。

新型コロナウイルスの感染拡大は第3波を迎え、医療環境が危機的ともいえる状況の

中、第40回学術集会は、萱間学術集会会長の先駆的なご判断で早期にオンライン開催にシフトされ、盛況に開催されていることに関係者の皆様に心より敬意を表したい。欧米ではワクチン接種が開始された。日本では未だ収束の見通しが見えない状況で、来年の学術集会開催時期の状況は不明確ではあるが、現段階では対面式で行う予定で準備を進めている。2021年12月4日（土）、5日（日）の両日に、名古屋国際会議場にて第41回日本看護科学学会学術集会を開催する。テーマは「共創による新たな看護科学の可能性」である。看護科学の発展のために、多様な学問領域の人びとと協働し、異なる観点や学問的な知見の融合を図るとともに構想し、新たなイノベーションを創造する共創により、開発されたケア方法が持続可能なものとなること、また看護実践を通して更なる新たな価値の創造に寄与する看護科学の可能性を模索したい。主なプログラムは、特別講演として認知症もしくは何らかの支援を必要とする高齢者のQOLを高めるためのAI研究と看護への期待（仮）について、藤田医科大学学長の才藤先生の講演を予定している。価値の共創から新たな看護支援システムの構築や看護研究手法に関する教育講演を計画している。シンポジウムとしては、理事会企画の日本心理学会との合同シンポジウム、災害看護への分野横断的研究アプローチをテーマに企画している。他にも教育セミナー、ワークショップ等、多彩なプログラムとなるように検討を進めている。先の見えない状況に光が差し込み、コロナが収束して明るい未来が開けるように来年の学術集会で多くの皆様方が発表し、有意義なディスカッションができることを願っている。多くの皆様のご参加をお願いしたい。

VIII. 閉 会

司会の須釜副理事長より、最終的な出席者正会員数は委任状を含めて合計2,624名となり、学会総会が成立していることが改めて報告された。

以上をもって、第40回公益社団法人日本看護科学学会総会が閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め記名押印する。

2021年 2 月 26 日

議 長 萱間 真美 印

議事録署名人 近藤 麻理 印

議事録署名人 斉藤 恵美子 印

第40回 公益社団法人 日本看護科学学会 学会総会 優秀論文表彰（優秀賞・奨励賞）

日 時 2020年12月12日（土）16：20～17：20（予定）
場 所 WEB開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

【議事次第】

- I. 開 会
- II. 理事長挨拶
- III. 議長指名および議事録署名人の承認
- IV. 報告事項
 1. 理事長のビジョンと運営方針
 2. 委員会のミッションと2021年度事業計画について
 3. 2021年度予算について
 4. 名誉会員の就任報告
 5. 第43回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告
 6. 「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会（JANS）会員の研究活動への影響と学会に求める支援に関する調査」報告
- V. 審議事項 理事会への意見
- VI. 表彰
- VII. 第41回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶
- VIII. 閉 会